

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：32641

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K20021

研究課題名（和文）未公開資料に基づくルネ・クルヴェル作品のハヴロック・エリスとサドの影響の研究

研究課題名（英文）A Study of the influence of Havelock Ellis and Sade in the works of Ren&amp;#233; Crevel based on unpublished documents

研究代表者

鈴木 大悟（SUZUKI, DAIGO）

中央大学・法学部・助教

研究者番号：60908002

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、シュルレアリスムの作家ルネ・クルヴェルの小説作品における、性科学者ハヴロック・エリスと革命家サドの影響について、未公開資料の読書ノートを参照することにより、解明しようとした。本研究はまず、エリスとサドにささげられた読書ノートを改めて精査し、これを踏まえたうえで、クルヴェルの小説『おまえたちは狂人か』（1929）とエリス、『皿に突っ込んだ足』（1933）とサドの関係を解明しようとした。再調査された読書ノートについては、所属機関の紀要にまとめた。また、エリスについては、所属学会で報告し、学会誌に掲載予定である。サドについては、近々世に問うつもりである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでのクルヴェル研究の多くは、同性愛や自殺など、作家の奇烈な実人生を重視し、作品をその表れとみる向きが強かった。本研究は、作家の未公開資料である読書ノートを参照することにより、クルヴェル作品における思想的葛藤を解明しようとした。本研究は特に、エリスとサドにささげた読書ノートを実証的に精査し、小説作品における両者の影響を考察した。こうした研究の方向性と資料の活用において、学術的意義は認められるであろう。また、性的マイノリティーとしてのクルヴェルが、エリスやサドなど性の革命の実践者たちをどのように受容したのかを考えることは、極めて今日的な社会的意義が認められるであろう。

研究成果の概要（英文）： This study attempted to elucidate the influence of the sexologist Havelock Ellis and the revolutionary Sade in the novels of surrealist writer Ren&#233; Crevel by referring to his reading notes in unpublished materials. This study first reexamined the reading notes dedicated to Ellis and Sade, and based on this, attempted to elucidate the relationship between Crevel's fictional works "Are You Crazy?"(1929) and Ellis, and "Petting My foot in it"(1933) and Sade. The reexamined reading notes were compiled in the bulletin of our institution. As for Ellis, we reported on it at our conference and plan to publish it in the journal of the Society. As for Sade, we intend to present it to the public soon.

研究分野：シュルレアリスム

キーワード：ルネ・クルヴェル シュルレアリスム ハヴロック・エリス サド 羞恥心 性的周期 自体愛

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の背景には、申請者が平成 15 年 17 年度に特別研究員奨励費 (PD) を認めていただいた研究「未公開資料によるルネ・クルヴェル作品の精神分析的・革命的・科学哲学的背景の研究」(課題番号 03J08812)がある。

平成 15 年 17 年度の研究は、シュルレアリスム作家ルネ・クルヴェルの未公開資料(パリ・サント・ジュヌヴィエーヴ図書館内ジャック・ドゥーセ文庫所蔵の自筆「読書ノート:Ms.6929～6942」他)を実証的に解読・整理し、それをクルヴェル作品(なかでも『ディドロのクラヴサン』(1932年)を中心とする「理論的」著作)と照合することにより、作家の理論構築における精神分析的・革命的・科学哲学的背景を検証するものであった。

続編にあたる本研究は、上記読書ノートを基に、「理論的」著作に次いで「小説」作品に焦点を絞るものである。なかでも 2 人の文人ハヴロック・エリスとサドに関する読書ノートを採り上げ、それをクルヴェルの小説『おまえたちは狂人か』(1929年)並びに『皿に突っ込んだ足』(1933年)と照合することにより、エリスやサドのクルヴェル作品における影響を解明しようとした。

## 2. 研究の目的

本研究は、以前申請者が認めていただいた研究(上述)により初めて解読・整理された自筆「読書ノート:Ms.6929～6942」のうち、「サド」(Ms.6933 1/10-10/10)と「ハヴロック・エリス」(Ms.6939 1/6-6/6)についてのノートをとくに採り上げ、クルヴェル作品(1929年出版の『おまえたちは狂人か』と1933年の『皿に突っ込んだ足』などの「小説」作品)と照合することにより、作家の創作活動における両者の影響について実証的に検証することを目的とする。具体的には、『おまえたちは狂人か』に描写される性科学研究所や服装倒錯などについて、エリスの著作(たとえばヒステリーや同性愛に関する著作)との関係を明らかにする。また、『皿に突っ込んだ足』において頻繁に援用されるサドについて、その小説家・革命家としての影響を解明する。

以上により、これまで看過されてきたクルヴェル研究の空白を埋めるのはもとより、ときに男性中心的と批判されるシュルレアリスム運動にあって、性的マイノリティーとしてクルヴェルが果たした役割や、既成の小説概念の刷新を目指したシュルレアリスム運動にとって、クルヴェルの小説の独自性を問うことも目指す。

## 3. 研究の方法

一次資料に基づく実証的な受容史の解明という本研究の目的にとって、シュルレアリスムの主導者アンドレ・ブルトンのプレイヤッド版全集刊行(1988年～)に当初携わったマルグリット・ボネの仕事の方法や姿勢は規範である。また、文学における思想的背景と創作の実態に関する研究分野では、たとえばシュルレアリスム運動と精神分析との創造的な関係性を論じたパオロ・スコペリッティの仕事『精神分析に対するシュルレアリスムの影響』(2002年)が挙げられるだろう。本研究は、ボネやスコペリッティの切り口を、クルヴェル研究にも採用し、資料により可視化される文献学的背景と、作品に表れる創造的な屈折のありようを見極めたい。

## 4. 研究成果

まず、研究初年度にあたる 2021 年度において、本研究は、シュルレアリスム作家ルネ・クル

ヴェルの未公開資料である読書ノートのうち、「エリス・ノート」を採り上げた。このノートは、性心理研究者ハヴロック・エリスの著作『羞恥心・性的周期・自体愛』を対象にした読書ノートであることを確認し、エリスのテキストとクルヴェルのノートを改めて突き合せた結果、クルヴェルがエリスをどのように読んだのか、「エリス・ノート」の解読精度をさらに向上することができた。他方で、クルヴェルの「小説」におけるエリスの影響については、非常に複雑な回路を有していることが判明した。この点については、作家における性科学の受容実態をさらに広く研究する必要があるだろう。以上のような研究を主題として、所属する学会において口頭発表を行った（下記参照）。

最終年度にあたる 2022 年度、本研究はまず、「エリス・ノート」同様に、「サド・ノート」を改めて精査した。次にこの資料と、読書対象となっているサドの著作（例えば『小説論』『閨房哲学』『対話篇』等）を照合し、作家はサドから何をどのように読み取ったのか検討した。クルヴェルにおけるサドの影響については、追って所属機関の紀要や学会等で、成果報告をする予定である。

研究期間全体を通じた成果物としては、次が挙げられる。

#### ・論文

鈴木大悟「クルヴェルのアタッシュケース～読書ノートと読書リスト」『仏語仏文学研究』中央大学仏語仏文学研究会、第 55 号、2023 年、73-97 頁。

（2021 年度における「エリス・ノート」及び、2022 年度における「サド・ノート」の精査等を踏まえて、作家の残した読書ノートの全体像を提示したもの。これによって本研究のコーパスが、すこしでも可視化されたものと信じる。）

#### ・口頭発表

鈴木大悟「ハヴロック・エリスはルネ・クルヴェルに何を考えさせたのか？～エリス『羞恥心・性的周期・自体愛』とその読書ノート」、2022 年度日本フランス語フランス文学会関東支部大会（2023 年 3 月 4 日開催）第 3 分科会 20・21 世紀（1）。

（本研究の調査結果を報告したもの。この口頭発表を基にした論文が、2023 年度末に刊行予定の学会誌『日本フランス語フランス文学会関東支部論集』（第 32 号）において、仏語掲載予定である。）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 鈴木大悟	4. 巻 55
2. 論文標題 クルヴェルのアタッシュケース～読書ノートと読書リスト	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 仏語仏文学研究	6. 最初と最後の頁 73-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 鈴木大悟
2. 発表標題 ハヴロック・エリスはルネ・クルヴェルに何を考えさせたのか？～エリス『羞恥心・性的周期・自体愛』とその読書ノート
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会関東支部大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------